

教訓をもとに犠牲者なしを

日本海中部地震30年追悼慰霊式



黙祷する参列者



追悼の辞を述べる熊木敏彦さん

すくすくこどもり館で5月26日(日)、日本海中部地震30年追悼慰霊式が行われ、町議会、警察、消防、漁協、町関係者など約70人が参列しました。

東日本大震災の印象が強いなか、発生から30年が経過し、今では知らない世代も増えた日本海中部地震。昭和58年のこの日正午、秋田県沖を震源とするマグニチュード7.7の強い地震が起こり、日本海沿岸を強い揺れと大津波が襲い

ました。このうち小泊地域では5人の犠牲者を出すなど大きな被害を受けていました。

当時は突然の地震に山手へ避難したが、停電によりサイレンを鳴らすことができなく、電話もつながらず、パニック状態に陥ったそうです。海岸に近い役場、駐在所、公民館など公共機関も機能を失い、海岸付近の住民は襲ってくる津波に逃げ惑いました。津波が去った後は、多くの漁船や家屋が被災し、総額12億6、834万円の被害額となりました。

追悼慰霊式では、犠牲者への黙祷に続き、町長の式辞、成田県議会議員、野上町議会議長の追悼の辞につづき、犠牲になった5人の遺族を代表して熊木敏彦さんが「これまでの地震・津波の経験をもとに、災害時には犠牲者が出ないように願う」と述べました。

町では日本海中部地震、東日本大震災を教訓に、9月8日(日)小泊地域を対象に総合防災訓練を行います。訓練は地震を感じたらすぐに「たげどさ逃げろ」をテーマに避難訓練、放水訓練、炊き出し訓練、専門家による講演を予定しています。



漁船を襲う津波



津波から逃げる住民

鉄道の魅力を紹介

駅ナカで春の鉄道まつり



山崎友也氏トークショー



津軽中里駅



撮影する鉄道ファン

駅ナカにぎわい空間で4月27日(土)5月25日(土)、鉄道をテーマにした「北辺のローカル私鉄山崎友也写真展」が行われました。期間中は山崎氏のギャラリートークショーやNゲージ運転体験、車両撮影会などさまざまな鉄道イベントを企画し鉄道ファンや親子連れが集まりました。

プロの写真家・山崎友也氏のギャラリートークショー(4月27日〜5月5日全5回)では、満足のいく1枚を撮るための心構えや、今回展示を見送った写真を見ながら反省点を振り返るなど、約1時間

間にわたり鉄道への思いを語っていただきました。このトークショーには県内外からカメラを携えたファンが集まり、メモをとりながら耳を傾けている人もいました。青森市から来た夫婦は「津軽鉄道に関する撮影エピソードが面白かった。楽しみつつ勉強になる話を聞くことができた」と話していました。

歯科医師の山口錬氏が作成したNゲージの運転体験では、津軽鉄道の沿線を再現した模型が展示され、実際に駅に発車・停車するメロス号に子ども達が集まっていました。さらに、このゲージは桜や雪などを散りばめ季節ごとに分けられていることや細かい駅名まで付けるなど細部にこだわって作成され、子どもだけでなく大人も楽しんでいました。

お得な商品を求めて

こどもり新鮮朝市開店

小泊漁港お祭り広場にて5月26日(日)、こどもり新鮮朝市が行われました。今年初めての朝市は、朝9時の開店とともに目当ての商品を求め買い物が集まりました。

また、ふるまい鍋としてホッケのつみれ汁がサービスされました。この朝市は、今後毎月第3日曜日に開かれ、旬の特産品を販売しています。



ホッケのつみれ汁のサービス